

令和4年度 第2回大阪府河川構造物等審議会 議事概要

日時 令和5年3月13日(月) 18:00~19:32
場所 大阪府西大阪治水事務所 1階AB会議室(対面・WEB併用)
出席者 渦岡委員(※)・建山委員・大島委員・岸田委員・真下委員・三村委員
計6名 ※会長

まとめ

■ 答申

- 大深度地下を使用した寝屋川北部地下河川の整備における「シールドトンネル工事の安全・安心な施工に関するガイドライン」(令和3年12月、シールドトンネル施工技術検討会)を踏まえた大阪府の調査、設計、仕様書等の作成での対応は、本審議会に提出された資料と説明の範囲において、適切であると判断した。
なお、鶴見調節池の地盤条件は、万一、掘削による地山の空隙や緩み等が発生した場合においても、その影響は地表面まで伝達しにくい地盤であるが、陥没事故が発生するリスクを想定し、適切に施工管理を実施すること。
- あわせて、以下の意見を付帯する。
 - 工事の実施にあたっては、想定されるリスクに対し、モニタリング手法やリスク対応及びトラブル対応などが適切に施工計画に反映されているか、有識者などに確認をすること。
 - 施工管理の中で、異常の兆候が確認された場合や、周辺環境に影響を及ぼすおそれのある重大なトラブルが発生した場合には、必要に応じて有識者などに意見を求めるなど適切な対応をすること。

主な確認事項、委員意見等(◇:委員、◆:事務局)

■ 「シールドトンネル工事の安全・安心な施工に関するガイドライン」を踏まえた対応について

【施工計画について】

- ◇シールドマシン等は設計段階からガイドラインを考慮したものとなっていることを確認しておくように。
- ◆受注者の設計段階からガイドラインに沿った検討状況を確認する。
- ◇土木工事安全施工技術指針に記載のある、掘進管理の項目も施工計画に反映させるようお願いする。
- ◆掘進管理の項目も含め、土木工事安全施工技術指針の内容について対応を行っていく。
- ◇最新の知見や技術を取り入れることで、より良い施工管理になるような工夫をしてほしい。
- ◆了解した。

【周辺環境への配慮について】

- ◇家屋調査の範囲は地盤条件を考慮するのか。
- ◆発注段階では、家屋調査の範囲は「近接施工(公益社団法人 地盤工学会)」に基づいており、地盤条件を踏まえて、各地盤の内部摩擦角を考慮している。
- ◇家屋調査の範囲外であっても調査を希望する住民がいるかもしれないので、調査範囲の考え方等を丁寧に説明し、柔軟な対応も必要。
- ◆工事説明等を丁寧に実施し、周辺住民の要望等はできる限り配慮しながら決定していく。

【地盤変位のモニタリングについて】

- ◇地盤変位のモニタリングの手法については、色々な測定技術があるので、測定範囲も含めて検討していくのがよいと思う。
- ◆地盤変位の計測手法や測定範囲については、受注者決定後に具体的に決定していく。

【水上輸送について】

- ◇水上輸送により安定したシールド掘削に支障がでる可能性が高いことは理解したが、周辺環境への配慮やカーボンニュートラルの観点から水上輸送のメリットもあるのではないか。
- ◆発注段階では、安全性の観点からシールドの連続施工を重視し、水上輸送ではなく陸上輸送の通行時間等を制限することで、周辺環境に配慮した施工を受注者に義務付ける。
ただし、受注者よりシールド工の安全性を確保したうえで、水上輸送が可能と判断できる施工計画が作成される場合は、水上輸送を行うこともある。